

では裏面トまではいりかねない状況を生みだすといふことを示すとともに、いくらダラダラともが斗争を裏切って労働者の怒りを離れたとしても、そのまま自動的には指導部作り分えられたりするものではないことを示し、さらにそのまゝの状況が続いたなら、かつては「温存しされてあつたエネルギーも腐敗してしまつ」と表示している。それは独身者の方が力持ちで、充実した人間にいる、などと「ことがないのと同じである。

6. 革命的労働者は存在している！

だとすれば、われわれが何をなすべきかは自ら明らかになる。いま全戦線的規模を妥協的傾向が支配し、資本家階級の思惑通りに労働運動の趨勢が向こうとしているなら、われわれの現在の特殊な課題は、階級的指導部の形成確立である。民同とい、革同とい、あるいはソロの講席を説く社会党とい、二〇余年の「史を語る共産党」といつても、実際には多くの労働組合には、それのものは何ら潮流としては存在していない。日鉄・日教組・日公等、典型的にそれらの潮流の形成されているところは別として、多くの紹介中立・金労の組合には、战斗的労働者は自発的な小グループの集団として存在している。そしてこれらの活動家集団は、何々の成績がある政党政治に所属していく否とを問わず、科学的社会主義の著作や先進的な組合の活動を通じて学び、自分の販場で自律的な活動を続けている。たゞ彼らは、青年部を掌握して大量の活動家を養成し、執行部に進出しようととしている。彼らはやがて、この決定的な革同に「ちあつ所属して活動してい出すであろう。こゝでは共産党的地区委員などが入党の勧説をしているが、「方針がナンセンスで營算擴大のことしか考えてない」と云つて相手にされない。

またある革産では、共産党中央に「ちあつ所属して活動していいた中坚幹部が、その「すれこもあきだらす、独自のグループを結成して階級的方針と行動を展開している。

8. 急げ！

それは、当面して「る安保斗争、夏季半当一時金斗争、首切反対斗争等のなかで、労働者大眾の面前で実験されねばならない」。総選挙終了後、临时国会を迎えて敵の全国的攻勢は急速に強化されるであろう。いな、すでに後壁の春斗と地方選の勝利を背景に、彼らは安保改訂の促進や防衛二法案の進行成立にみられるようを急に「チの攻撃を開始している。そして先づには大手五社の合理化案が提示されようとしている。

階級的指導部の形成があくれるなら、敵の全面的攻勢を何うなすと「ろなく黙つて見送つて背後で抜き去られるが、あるいは下からの圧力を激烈、云乱な斗争が開始されたとしてもそれが政治危機に進展する前に必ずと取引きで中止せしめられてしまうであろう。事態は切迫している。

わが同盟は、いくつかの基幹産業に橋樑を確立したが、まだ恣意的に不充份である。ありとあらゆる方法で革命的労働者を探し、接触し、くつさき、つなぎあわせ、拡大し、強化しなければならぬ。

7. 新しい指導部をつくりだせ

われわれはこのような労働者をまずオーに組織しなければならない。そして彼らと協力し、奮斗はいかに斗われねばならず、また斗えたが、分明らかにし、既成指導部を批判するとともに、日々の革産・革組における明確な斗争の方向を指示する。必要がある。労働階級に向つて、既成の指導部以外にも指導部が存在しそれが必ず解放の道を示すものであることを知らせる必要がある。

奮斗が終つてから、分会・支部・革産の大会の開かれれる六月までのこの期間、労働者の怒りを止しく「当面の敵」に向付させ、アナーキーな行動や組合自身の否定にまで向ひがねない労働者の憤慨を、階級的指導部の形成の否定にまで向ひがねない労働者の憤慨を、階級的指導部の形成の方向へ發展させねばならぬ。だがこれらの革命的労働者は、「理論」はペターリン主義のめがねを通してしかマルクス主義をつかみとつていな。この一とは九九%確実である。そして、ただ実践を通してエセ・社会主義者を排斥しているのである。だから、彼らに眞のマルクス主義のとほれだ」というものを年えることができず、彼らは極めて急速に自信をもつて大きな仕事をやり出すようになる。各革産・革組の「方針」が、織細な点まで教えてやれないから、といふことで彼らとの接触を尻込みするなどは愚の骨頂である。そんなことは一緒に考えればいい。

(次頁につづく)